TOKKATSU

特活通信

2025年4月10日 第2号 発行 日本特別活動学会 会長 安井一郎(獨協大学) 文責 山田真紀(椙山女学園大学)

特別活動は子ども達の社会参画の力を育てます

小学校学習指導要領で「社会参画」が出現するのは特別活動だけ

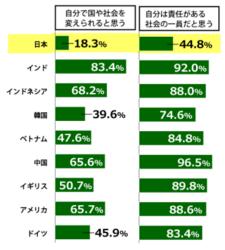
中教審への諮問の「理由」のなかに・・・

「異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行い、 問題を発見・解決できる、"持続可能な社会の創り手"を育てる必要 性」が指摘されています。また、

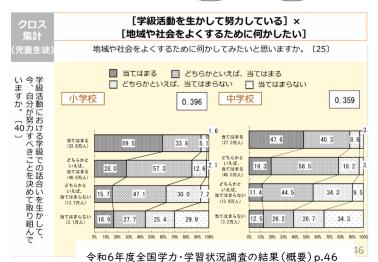
中教審への諮問の「審議の要点」の3つ目に・・・

「教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえつつ、国家や社会の形成者として、主体的に社会参画するための教育の改善についてどのように考えるか」という問いが示されています。



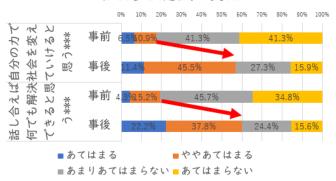


グラフ | 日本財団「18歳意識調査」第20回「国や社会に対する意識」(9カ国調査)2019



社会参画意識の変化

グラフIにあるように日本の子ども達の社会参画の意識は他国に比べて低いです。しかし育成すべき資質・能力の3つの視点として「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を掲げる特別活動をしっかり学ぶと、グラフ2にあるように若者の社会参画の意識は著しく向上します。令和6年度全国学力・学習状況調査でも学級活動を生かして努力している子は社会参画意識が高いことを示しています。では、なぜ特別活動は子どもの社会参画意識を向上させることができるのか? それは、話合いをして学級生活をよ



グラフ2 特別活動は学生の意識や行動をどう変えるか 山田真紀・清水弘美 2025年

りよいものにしたり、係活動などを通して人の役に立つ経験をしたりと、学校生活において<mark>成功体験を積み重ねること</mark>ができるからです。次号では、「話合い活動」に焦点を当て、社会参画意識が高まるメカニズムについてご説明します。

(出典) 出典: 「日本財団「18 歳意識調査『第20回-社会や国に対する意識調査』要約版」(2019年11月30日)より筆者作成 グラフ2 山田真紀・清水弘美「特別活動は学生の意識や行動をどう変えるか」2025年度日本特別活動学会大会にて発表予定 調査概要: 2025年2月に「特別活動の指導法」を受講した女子学生75名を対象に授業開始前と終了後にパネル調査を実施。